

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470201102	事業の開始年月日	平成17年2月1日	
		指定年月日	平成17年2月1日	
法人名	医療法人社団 廣風会			
事業所名	グループホーム ル・ミエール			
所在地	( 221-0863 ) 神奈川県横浜市神奈川区羽沢町1196-18			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年3月1日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ル・ミエールでは、一日の細かなスケジュールではなく、今までの生活を継続できるようにしていきたいと思っております。  
 行事やイベントも盛り込んで行っていますので、今までの生活とは違った楽しみができると思います。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成22年3月20日	評価機関 評価決定日	平成22年4月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴  
 ①このホームの経営は医療法人社団の廣風会、整形外科病院が母体であり、ホームの近くに老健ラ・クラルテ、新横浜南クリニックが開設されている。介護の色々な面でこれらの施設を活用出来るのは強みである。例えば医師、看護師、栄養士、リハビリテーションの施設と技師等が協力体制で引かれている。健康管理については、月2回のグループ内の医師の往診があり、定期検診を含めた医療チェックを行っている他、退所時などでは老健、医療の施設の相談・活用がしやすい点もメリットとなっている。立地は、神奈川区の北部の住宅地にあり、交通量の多い道路が通っているが、まだ畑なども残る環境である。  
 ②地域との関係では、町内会に加入し、夏祭りにはご利用者と一緒に参加し、町内会の運動会にはご利用者が出場して参加賞を頂く等、友好的に交流が図られている。社協にクリスマスらしい出し物のボランティアの紹介をお願いしたところ、大正琴、フラダンスの方々に来て頂いた。ボランティアの方がお孫さんを連れて訪問された際は、入居者の方々は大喜びされ、楽しく過ごす一時を頂いている。近所のふれあいバザーにも参加し、そこで行われた餅つき大会が大変好評であったので、町内会から臼を借り、駐車場で独自の餅つき大会を行い、ご近所に案内のビラを入居者と一緒に配布して地域との交流に努めている。  
 ③ケアについては、H21年6月に施設長の交代等があり、体制固めと新任職員の教育を急務とし、現在、期待を持ち取り組まれている。このホームは書式のパソコン化が進んでいるので、新人に施設長の介護方針とそれに伴う記録方法の周知徹底を進めている。家族会があるが、運営推進会議の重要部分を担って頂きたいと考えており、家族会の延長線上で運営推進会議が持てる体制を構築中である。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ル・ミエール
ユニット名	1F

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	○	3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
	○	3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
	○	3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
	○	3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2ユニットあり それぞれのADL・認知度に合った生きがい作りを念頭において 役割分担・レクレーション・食事に工夫している。全てあてがいぶちを避け意見を尊重している。	理念は「入居者それぞれの生活・営み・生きがいを大切に、ゆったりと・穏やかに生き生きとしたをモットーに安心して過ごせる環境をつくりを私たちは可能な限りたすけ（介）まもり（護）続けます」と云うものであるが、職員も一新した折でもあり、わかり易い理念の検討を進めてみたいと考えている。	体制固めと職員の教育・育成
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の店への入所者との買物や回覧板届け等 徒歩で行ける所へは毎日行き交流をはかっている。夏祭りや運動会を町内会で催される際は入所者と参加。G・Hイベントには招待しています。	夏祭りや運動会が町内会で催される際は入所者と参加している。また、食材を近所の商店を利用したり、近所の店へ入所者と買物に行ったり、回覧板届け等、徒歩で行ける所へは毎日行き、交流を図っている。グループホームのイベントには、ご近所の方々を招待している。町内会から白を借り、駐車場で独自の餅つき大会を行い、ご近所に案内のビラを入居者と一緒に配布する等、地域との交流に努めている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	花火やもちつき等をG・H庭等、屋外で行い 地域の子供達の参加を受け入れ ふれあいの機会を積極的にもっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H21年6月に施設長に就任以来、施設内の体制再構築に重点を置き、運営推進会議の開催は控え内部整備に努めた。更に家族の結束にも重点を置き、11月に家族会は催した。	H21年6月に施設長に就任以来、施設内の体制再構築に重点を置き、運営推進会議の開催は控え、内部整備に努めた。更に家族の結束にも重点を置き、11月に家族会を催した。家族会には運営推進会議の重要部分を担って頂きたいと考えており、家族会の延長線上で運営推進会議が持てる体制を検討している。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	H21年6月に施設長に就任以来、神奈川区に確認しながら体制の整備に努めてきた。生活保護者に関する点で不明点があり福祉担当者に協力求めているが、今後の適切な指導を期待している。	施設長してから神奈川区に確認しながら、内部体制の整備に努めてきた。生活保護者に関する点で不明点があり、福祉担当者に協力を求めているが、今後の適切な指導を期待しながら連携を図っていくつもりでいる。地域包括支援センターとの交流も深めて行きたい。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は21時～6時として誰もが訪問しやすくしている。現在のところ 身体拘束をする必要のある入所者はおらず、当G・Hには拘束帯も拘束衣もついてすらいない。	玄関は日中は施錠していない。(施錠は21時～6時)誰もが訪問しやすくなるよう努めている。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束をする必要のある入所者はいない。当グループホームには拘束帯、拘束衣等は備えていない。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	直接的殴る・蹴る以外に言葉掛け次第では虐待になる事を常に伝達し管理者自身がお手本を示している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約決定前に3度は、本人や家族と対話の機会を作り、相互理解を深めるように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族もご本人も多種多様の説明をされると混乱する事もあるため 窓口は管理者又はCM対キーパーソンとし、対応しているが疑問がある場合は、公的機関利用を促している。	ご利用者やご家族等からの意見、要望を受ける窓口は管理者又はケアマネジャーとして、対応している。疑問がある場合は、公的機関利用も促している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1月に1回程度は、ケース会議と業務会議を設けている。	1月に1回程度は、ケース会議と業務会議を設けている。正規社員は13人いて、産休、育休の制度もあり、施設長に個人面談等の相談も出来る体制となっている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々の能力に応じ、職場での業務意欲の低下にならぬ様に役割分担を指示している。労働基準法に照らし合わせて、昼休みの1時間休憩は徹底させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の方では研修の勧めすらないため、管理者がP・Cで選び出し部下に勤めているが、法人補助なく自腹で参加する事が多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	G・Hブロック会よりの案内があった場合は、出来る限り参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後 1週間程度は職員一人一人が、入所者様に、細かな気配りが出来るように、意識させる目的もあり昼夜に渡り記録を細かくさせている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後 1週間～半月間は家族の面会のない時は、電話等で近況を伝える様に、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後 2週間は特に家族に近況を伝え合い、サービス計画立案する上で、見極めとしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の分担等 協力をお願いしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	市内の方には面会を、遠方の方には葉書等の交流を促している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人との電話通信や 外出・泊等をすすめ、ホームでも外出レク・買物・もちつき等のイベントを催している。	ご家族や友人との電話通信や外出、泊等を推進し、ホームでも外出レク・買物・もちつき等のイベントを催して維持及び継続に努めて支援している。認知症が進み、理解出来ない方も居て維持・継続が難しいケースもある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出の際は、気が合う同士のグループ分けや席の配置に配慮している。日常的にも食席の席替えでコミュニケーションできるよう配慮。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良により、入院のため退所された方へのお見舞い、家族よりの電話相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望の新聞や愛読書の購読手続きの手助けや、フリータイムの時間を作り思い思いに過ごして頂いている。	ご利用者の希望の新聞や愛読書の購読手続きの手助けや、フリータイムの時間を作り、思い思いに過ごして頂いている。職員は、日頃の気付きにより、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、勤務の長いスタッフから情報を聴き取り入れています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知度に合わせて個々に話し合いの時間を作り、要望を取り入れ一日のプログラムを作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と面談の時間を作り、相互に意見交換した上で、ケース会議をもち3ヶ月毎に介護計画を作成している。	介護計画はセンター方式をベースとしたフォーマットを使用している。本人や家族と面談の時間を作り、相互に意見交換した上でモニタリング表を基にケース会議をもち、3ヶ月毎に介護計画を作成している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、本人の行動や言動をこまめに記録入力し、スタッフが情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1回/3カ月のケアカンファレンス以外でも、病状変化や認知度の進行により、常時支援方法を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方とのコミュニケーションを深められるように町内会イベントに参加したり、G・H内イベントへのお誘いを通しボランティア等協力依頼している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を取り入れて訪問Drで満足されない方には、従来よりのホームDr受診継続し、検査データ等情報交換し合っている。	ご家族の希望を取り入れ、訪問医師で満足されない方には、従来よりの主治医の受診の継続も行っている。殆どは訪問医師に受診している。従来よりの主治医の受診の場合には検査データ等情報交換し合っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	まだまだ気づきが少ないが、夜勤パイトの看護師が医療面での異常所見に気づき、早目の支援・対処可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相互にサマリーを出しあい情報交換している。時には電話にて相談をしており、良い関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で確認書を取り交している。	ご入居時に確認書を取り交している。老健、クリニック、協力病院があり、入居者は重度化や終末期について安心している。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常日頃、起こりうる誤嚥等の対応等は全員に伝達している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力を得、防火訓練・消火器の使用方法等訓練している。	地域の消防署の協力を得、防火訓練・消火器の使用方法等訓練している。同じ法人の老健、クリニックが近所にあり、災害の場合には協力する体制にある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の認知度の違いもあるが、本人の好む呼び方を心掛け、話し言葉も本人に合わせている。	一人ひとりの認知度の違いもあるが、一人ひとりの人格を尊重し、本人の好む呼び方を心掛け、話し言葉も本人に合わせている対応をしている。		今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	フリータイムの談話時間を利用して食べ物の好みを伺ったり、時々違う物を揃えてバイキングにしたりしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション予定表はあるが、入所者様の意向に添い、常時変更している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベント時は、職員と共に服装や化粧して楽しんでいる。男性は髭剃りや眉カット			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時、必ず一人は同じテーブルで食事介助・食事摂取をする。ほとんどが義歯にてソフト食の献立に心がけ、自分で箸で食べられる工夫をしている。配膳・下膳・食器洗いも共にしている。	独自のメニュー、美味しい食材、美味しいお米にこだわった食事を提供している。毎食時、必ず一人は同じテーブルで食事介助・食事摂取をする。ほとんどが義歯にてソフト食の献立に心がけ、自分で箸で食べられる工夫をしている。配膳・下膳・食器洗いも、職員と一緒にしている。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は特別制限のない方は、1500/1日を目標にし、本人の好みの飲料も加えている。必要時にはトロミアップも利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は自立されていない方は、毎食毎に、義歯洗浄（時には口腔内清拭）している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中のみでも、3時間毎にトイレ誘導して排尿・排便を促している。	日中のみでも、3時間毎にトイレ誘導して排尿・排便を促し、尿意・便意を大切にして、自立に向けた支援を行なっている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを提供したり、繊維質の食材を切りかたや調理方法を吟味。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	職員により、入浴介助をあまりしない者もあるため、時により全員/1日入浴になるため3人/1日にグループ分けして、ゆったり安全第一で確実に2回/週でき 清潔保持に努めている。（汚染時はその都度シャワー浴）	一日に3人のグループ分けして、ゆったりと安全第一に、確実に週2回は入浴できるよう清潔保持に努めている。汚染時はその都度シャワー浴を行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の配置や照明・室温も本人の希望に添って調節し、体力に応じ午睡タイムも作って介助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方録はファイルで整理しスタッフ誰でも確認出来る様にしている。又、新しい内服開始の際は看護師より説明する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜きざみ・団子作り・包丁研ぎ・庭の水まき・新聞取りなど役割分担していただき、周囲の方からの「ありがとう」の声掛けで生きがいを感じてもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内の運動会・バザー・初詣やホテルへの外出ツアー等、外出の機会を作る様に心掛けている。	町内の運動会・バザー・初詣やホテルへの外出ツアー等 外出の機会を作る様に心掛けている。近所の店へ、入所者と買物に行ったり、回覧板届け等、徒歩で行ける所へは毎日行くようにしている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	町内のバザーや神社の初詣等は、小銭を持参して頂く様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所時より、遠距離の親族は葉書のやり取り等で絶縁気味にならないように家族に働きかけている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	遮光カーテンやエアコン・床暖房で心地良い環境を作り、季節感を取り入れた飾りつけを心掛けている。	遮光カーテンやエアコン・床暖房で心地良い環境を作り、季節感を取り入れた飾りつけを心掛けている。誕生日毎に写真等を添付した色紙を作り、部屋の扉に貼り、インテリアと目印としても掲示している。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席以外にソファ設置や廊下途中に畳台設置・庭にベンチを置いている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の備品のセッティングは本人や家族の意向を取り入れている。自宅からいらした方は、なるべく自宅と同様にしている。	室内の備品のセッティングは、ご本人やご家族の意向を取り入れている。自宅からいらした方は、なるべく自宅と同様にしよう配慮している。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッド・手摺り使用や介助具利用で、自力歩行や自立起座・立位が楽に出来る様にしている。			

事業所名	グループホーム ル・ミエール
ユニット名	2F

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	○	3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
	○	3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
	○	3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
	○	3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2ユニットあり それぞれのADL・認知度に合った生きがい作りを念頭において 役割分担・レクリエーション・食事に工夫している。全てあてがいぶちを避け意見を尊重している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の店への入所者との買物や回覧板届け等徒歩で行ける所へは毎日行き交流をはかっている。夏祭りや運動会を町内会で催される際は入所者と参加。G・Hイベントには招待していません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	花火やもちつき等をG・H庭等屋外で行い、地域の子供達の参加を受け入れ ふれあいの機会を積極的にもっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H21年6月に施設長に就任以来、施設内の体制再構築に重点を置き、運営推進会議の開催は控え内部整備に努めた。更に家族の結束にも重点を置き、11月に家族会は催した。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	H21年6月に施設長に就任以来、神奈川区に確認しながら体制の整備に努めてきた。生活保護者に関する点で不明点があり福祉担当者に協力求めているが、今後の適切な指導を期待している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は21時～6時として誰もが訪問しやすくしている。現在のところ 身体拘束をする必要のある入所者はおらず 当G・Hには拘束帯も拘束衣も置いてすらない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	直接的殴る・蹴る以外に言葉掛け次第では虐待になる事を常に伝達し管理者自身がお手本を示している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約決定前に3度は、本人や家族と対話の機会を作り、相互理解を深めるように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族もご本人も多種多様の説明をされると混乱する事もあるため 窓口は管理者又はCM対キーパーソンとし、対応しているが疑問がある場合は、公的機関利用を促している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1月に1回程度は、ケース会議と業務会議を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々の能力に応じ、職場での業務意欲の低下にならぬ様に役割分担を指示している。労働基準法に照らし合わせて、昼休みの1時間休憩は徹底させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の方では研修の勧めすらないため、管理者がP・Cで選び出し部下に勧めているが、法人補助なく自腹で参加する事が多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	G・Hブロック会よりの案内があった場合は、出来る限り参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後 1週間程度は職員一人一人が、入所者様に、細かな気配りが出来るように、意識させる目的もあり昼夜に渡り記録を細かくさせている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後 1週間～半月間は家族の面会のない時は、電話等で近況を伝える様に、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後 2週間は特に家族に近況を伝え合い、サービス計画立案する上で、見極めとしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の分担等 協力をお願いしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	市内の方には面会を、遠方の方には葉書等の交流を促している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人との電話通信や 外出・泊等をすすめ、ホームでも外出レク・買物・もちつき等のイベントを催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出の際は、気が合う同士のグループ分けや席の配置に配慮している。日常的にも食席の席替えでコミュニケーションできるよう配慮。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良により、入院のため退所された方へのお見舞い、家族よりの電話相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望の新聞や愛読書の購読手続きの手助けや、フリータイムの時間を作り思い思いに過ごして頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、勤務の長いスタッフから情報を聴き取り入れています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知度に合わせて個々に話し合いの時間を作り、要望を取り入れ一日のプログラムを作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と面談の時間を作り、相互に意見交換した上で、ケース会議をもち3ヶ月毎に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、本人の行動や言動をこまめに記録入力し、スタッフが情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1回/3カ月のケアカンファレンス以外でも、病状変化や認知度の進行により、常時支援方法を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方とのコミュニケーションを深められるように町内会イベントに参加したり、G・H内イベントへのお誘いを通しボランティア等協力依頼している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を取り入れて訪問Drで満足されない方には、従来よりのホームDr受診継続し、検査データ等情報交換しあっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	まだまだ気づきが少ないが、夜勤バイトの看護師が医療面での異常所見に気づき、早目の支援・対処可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相互にサマリーを出しあい情報交換している。時には電話にて相談をしており、良い関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で確認書を取り交している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常日頃、起こりうる誤嚥等の対応等は全員に伝達している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力を得、防火訓練・消火器の使用方法等訓練している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の認知度の違いもあるが、本人の好む呼び方を心掛け、話し言葉も本人に合わせている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	フリータイムの談話時間を利用して食べ物の好みを伺ったり、時々違う物を揃えてバイキングにしたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション予定表はあるが、入所者様の意向に添い、常時変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベント時は、職員と共に服装や化粧して楽しんでいる。男性は髭剃りや眉カット		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時、必ず一人は同じテーブルで食事介助・食事摂取をする。ほとんどが義歯にてソフト食の献立に心がけ、自分で箸で食べられる工夫をしている。配膳・下膳・食器洗いも共にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は特別制限のない方は、1500/1日を目標にし、本人の好みの飲料も加えている。必要時にはトロミアップも利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は自立されていない方は、毎食毎に、義歯洗浄（時には口腔内清拭）している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中のみでも、3時間毎にトイレ誘導して排尿・排便を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを提供したり、繊維質の食材を切りかたや調理方法を吟味。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員により、入浴介助をあまりしない者もあるため、時により全員/1日入浴になるため3人/1日にグループ分けして、ゆったり安全第一で確実に2回/週でき 清潔保持に努めている。（汚染時はその都度シャワー浴）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の配置や照明・室温も本人の希望に添って調節し、体力に応じ午睡タイムも作って介助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方録はファイルで整理しスタッフ誰でも確認出来る様にしている。又、新しい内服開始の際は看護師より説明する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜きざみ・団子作り・包丁研ぎ・庭の水まき・新聞取りなど役割分担していただき、周囲の方からの「ありがとう」の声掛けで生きがいを感じてもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内の運動会・バザー・初もうでやホテルへの外出ツアー等 外出の機会を作る様に心掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	町内のバザーや神社の初詣等は、小銭を持参して頂く様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所時より、遠距離の親族は葉書のやり取り等で絶縁気味にならないよう 家族に働きかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	遮光カーテンやエアコン・床暖房で心地良い環境を作り、季節感を取り入れた飾りつけを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席以外にソファ設置や廊下途中に畳台設置・庭にベンチを置いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の備品のセッティングは本人や家族の意向を取り入れている。自宅からいらした方は、なるべく自宅と同様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッド・手摺り使用や介助具利用で、自力歩行や自立起座・立位が楽に出来る様にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

医療法人社団 廣風会  
グループホーム  
ル・ミエール

作成日

平成22年6月14日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	入居者様に対してのサービス提供が各スタッフバラバラである。	スタッフ間でまずコミュニケーションを取れる。又、統一出来るケアが出来るようなケアチームにする。	1回/月の定期カンファレンス。日地用に応じショートカンファや個人面談を行い個々の意志の疎通をはかりレベルにあった研修参加	1年
2	19	入居者様の家族との信頼関係を保つ上で最近熱意が冷め惰性的ケアに見られている。	積極的な家族への電話(近況報告)や面会ノートの活用で家族の面会意欲を高めスタッフと利用者とのコミュニケーションの場に家族の参加をはかる。	昨年よりレベルアップさせ地域交流(夏祭り・運動会等)に家族も巻き込んで家族と利用者の文通等も加え断続しない雰囲気作りにつとめます。	6ヶ月
3	48	2ユニット間での共同作業の協力体制が整っていない。	外出・外泊・レク等大きなイベントは特に各スタッフの特性をいかにしながら、生きがいを持てる支援をしていく。	スタッフの2ユニット間での勤務異動と個々での注意・指導の徹底・業務内容の改善を試みる。	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。